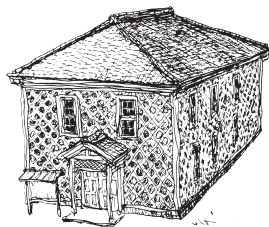


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

● 福澤研究センター所長

いわたにじゅうろう
岩谷十郎

福澤研究センターの30年

慶應義塾には、福澤諭吉の名前を冠した唯一の研究機関として、「福澤研究センター」があります。本センターは、福澤やその門下生についての、さらに義塾全体に関わる「アーカイブズ（歴史文書館）」であり、またそれらの資料に基づき「研究」を深め、かつその成果を「教育」に活かしてゆくという、三つの役割を果たしています。

もともと本センターは、慶應義塾の歴史を編纂するために1951（昭和26）年に設置された「塾史編纂所」を起源としています。それは義塾が、1958（同33）年に創立100年を迎えるに先立って、『慶應義塾百年史』を編纂するために組織された機関でした。

最近是自己語りや自分史がブームで、その連なりか、自校史、学校史も盛んになってきています。慶應義塾では、古くは福澤自身が1883（明治16）年に記した『慶應義塾紀事』をはじめとして、『五十年史』、『七十五年史』と、折にふれてその歩みを振り返ってきましたが、それはいわば、義塾のアイデンティティーを常に過去と未来の時間の中に確認し位置付け直す作業

であったといえましょう。1969（昭和44）年に『百年史』の刊行を終えた「塾史編纂所」は、同年「塾史資料室」に、またその14年後、すなわち義塾創立125年目にあたる1983（同58）年に、「福澤研究センター」に発展改組されてゆきました。今年センター発足30年にあたる年なのです。

“Fukuzawa Memorial Center for Modern Japanese Studies, Keio University”とは本センターの英語表記。福澤記念「近代日本研究センター」も本センターの横顔です。日本の近代化過程の広い文脈の中で福澤や慶應義塾を相対化し再定位・再評価するために、人文・社会から自然科学に携わるあらゆる分野の研究者を所員として、総合的な研究を行う機関でもあります。その成果は、機関誌である『近代日本研究』や日吉や三田に設置されるセンター講座により、塾生の皆さんに開かれたものとなっています。

本センターは、今から5年前の義塾150年にちなみ、『慶應義塾150年史資料集』の刊行を始め、昨年その第1巻として『塾員塾生資料集』を完成させました。皆さんも図書館などで手に取って慶應義塾の歴史を感じてみませんか。